

審議会情報

第4回滋賀県環境審議会廃棄物部会会議概要

掲載日:2005年6月16日

資源循環推進課 循環計画推進担当

● 日時:

平成17年5月16日(月曜日)
午後1時～午後2時40分まで

● 場所:

滋賀県職員会館2階大ホール

● 出席委員:

武田部会長、畑野委員、平松委員、川地委員、和田委員、瀧本委員、浅野委員、遠藤委員、平田委員、坂本委員、中井委員、福水委員(代理)、藤本委員(代理)

協議事項 廃棄物処理計画について(諮問)

事務局から「会議資料2 第二次滋賀県廃棄物処理計画について(諮問)」、「会議資料3「第二次滋賀県廃棄物処理計画」審議会スケジュール(案)および構成・作業イメージ図(案)」に基づき説明。

部会長: 説明のとおり審議を進めてよろしいか。

———同異議なし———

部会長: ご意見もないようなので案どおりに進めさせていただきます。審議に当たっては十分な審議となるよう皆様のご意見をその都度いただき進めていきます。

事務局から「会議資料3 「第二次滋賀県廃棄物処理計画」審議会スケジュール(案)および構成・作業イメージ図(案)」、「会議資料4 滋賀県廃棄物処理計画(現計画)」、「会議資料5 一般廃棄物の各年度の処理実績等」、「参考資料 廃棄物の減量その他適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針(改正案)」に基づき説明。

川地委員: 廃棄物処理業者データベースはもうできているか。

事務局: 間もなくできる。

川地委員: 下水汚泥等の溶融スラグを今後どうしていくつもりか。

事務局： 現在はやむをえず最終処分に回っている物もあるが、今後、リサイクル認定制度で溶融スラグを使ったコンクリート二次製品等を積極的に認定して県の公共工事に使っていこうと考えている。

中井委員： プラスチックの再生はどのようになっているか。

事務局： ペットボトルは県内に1業者、県外近くにも業者があり資源化している。プラスチック製の容器包装は容器リサイクル協会のルートに乗っていて、県内のパレット製造業者、近くでは福井県のマテリアルリサイクル事業者、さらに製鉄所でコークス代替品として使っている。そのようなところで一定資源として使用されている。

部会長： 資料に規制と書いているが容器包装リサイクル法は規制法でないのではないか。

事務局： 書類から引用したためだが、仕組みとした方がよいかもかもしれない。

部会長： 前回の計画の見直しをして、その反省のもとに次期計画を作るべきでは。

事務局： 発生抑制がまず第一と考えるがなかなか進んでいないと言うのが、まず感じるところである。最終処分量は順調に減ってきている。リサイクルの伸び率は少しずつ増えてきているが、産業廃棄物の速報値では少し少ない数字になっているけれども有効利用としてはそれほど減っておらず、全体としては再生利用は、少しずつ増えてきていると感じている。今後、一般廃棄物では、容器包装、紙ごみと生ごみをどうするか、プラスチックの取り組み方、事業系ごみ、有料化(コスト意識、経済的インセンティブ)、意識の向上などが大事と考えている。ハード施設をどう整備するか、県の公共関与も考えるべき。循環社会にこうあるべきだというものを打ち立てていきたい。情報公開、住民参加も考えて行くべきと考える。前回のことをどこまで進んでおり、どのような反省をするのかきっちり整理して次回にお示ししたい。

中井委員： 新聞雑誌以外の紙ごみがとても多くその回収が重要では。

部会長： 大学等ではかなり集めている。

中井委員： 封筒の紙ごみなどが多いことが問題だ。

部会長： プライバシーの問題があるので、リサイクルがしにくい。

和田委員： 機密で破らないといけないのは非常に手間がかかるので、一概には難しい。

第二次処理計画を作るのであれば、前回とどう違うのか見える形で、違う視点でポイントを絞って、読んでみて参加したいと思うようなものを作って欲しい。

遠藤委員： ゴミ出しをする人の立場からは、牛乳パックなど具体的に書いた方が参加しやすいと思う。最終処分量が順調に減っているとしているが、景気が悪いだけではないのか。景気も考えて整理をしたらどうか。

部会長： 経済成長率をどれくらい見ててこうなっているのかを考えた方がよい。減らせばいいのではない。目に見えずどこか行っているということもしっかり問題視して書いた方がいい。

川地委員： 県全体ではこうだが、自治体ごと、業種ごとに見たらどうかと細かく分析してはどうか。施策を出すのに不明確になる。

和田委員： 廃棄物処理施設は迷惑施設でなく、立地するからよくなるという意識を入れて書いた方がよい。

事務局： 環境と経済プラス社会・地域に貢献できるような形でできるようにしなければならないと思っている。

浅野委員： 減量と資源活用を並行してすると言われているが、どちらがメインなのか。テレビの力は強いので、物を売ると言うばかりでなく、資源として利用するという広報が大事。どちらがメインなのか分かりかねる。

部会長： いかに少ない資源でいかに大きな有効性を得るかを指標にするなど、環境省もいろいろな指標を出そうとしているが、このような考え方を、もし入るとすれば計画の中に入れて欲しい。資源の有効利用と、経済の成長率を考慮してほしい。

遠藤委員： 滋賀県は人口が増え続け、景気が回復するという両方の要素に減量化の足を引っ張られる。県民をあげて意識が高まっているが、よほどしっかりと意識を持って取り組まないといけない。1年に1回は会議を持つ前に環境の勉強をしましょうというような啓発が必要。よほどがんばって取り組まないと少しずつ進みかけている廃棄物処理の問題が足を引っ張られる懸念がある。

事務局： 現状の把握、課題抽出、現状施策の評価等を次回示す。